

機器センター再設置

平成19年4月より、分子スケールナノサイエンスセンターと分子制御レーザー開発センターの汎用機器を統合して、機器センターが新たに発足しました。機器センター構想は平成17年から始まった分子研の組織再編の一環として行われました。分子研創設時に設立された機器センター、極低温センター、化学試料室は図に示すように時代と共に変遷してゆきました。これらの施設はもともと、汎用機器をそろえて研究所内外の共同利用に供していましたが、同時にセンターの助教授や助手が独自の研究も行っていました。時代と共に研究色が強くなり、これらの施設が果たすべき共同利用のための汎用機器の保守などサービスの面が手薄になってきたのが再編のきっかけになりました。共同利用研の原点に戻って新たに発足した機器センターは7名の技術職員と2名の事務支援員で構成されており、それ自身では研究を行わない組織になっています。現在、機器センターはまだ事務室をもっておらず、技術職員、事務支援員はばらばらに分散しています。レーザーセンターの事務室を間借りして運営していますが、平成20年度からは化学試料棟を改装して事務室、居室、施設利用者のための控え室を用意して、共同利用を円滑に進めるための体制を整えるべく準備中です。機器センターでは隔週月曜日に会合を開き、再編成されたセンターの運営に対する技術職員同士の意見交換を

行っています。また、所内委員による運営委員会を毎年1回開催する予定です。

機器センターでの主たる汎用機器は山手地区のNMR、質量分析装置、粉末X線回折装置、明大寺地区のESR、SQUID磁束計、X線回折装置（粉末、単結晶）、希釈冷凍機、蛍光分光装置、紫外可視近赤外分光装置、円二色性分光装置などです。共同利用の形態は施設利用が主ですが、レーザーと上記の汎用機器を組み合わせた特殊仕様の実験も支援する予定です。この他、山手地区と明大寺地区にある液体ヘリウム液化装置や液体窒素貯蔵槽を用いて、液体ヘリウム・液体窒素の供給を行っています。具体的な共同利用の方法につきましては新装の機器センターホームページ<http://ic.ims.ac.jp/>をご覧ください。

このほか、平成19年4月より発足した化学系研究設備有効活用ネットワークの汎用機器の共同利用も支援しています。このネットワークには国立大学72校の化学系研究機関が参加



機器センターホームページ
<http://ic.ims.ac.jp/>

し、2007年7月13日現在で4140人の利用者が登録しています。分子研が全体の親機関となって運営していますが、汎用機器の予約システムの維持管理・登録業務などの実務を機器センターが担当しています。

新機器センターの立ち上げや化学系研究設備有効活用ネットワークを限られた短い期間で立ち上げるために献身的な努力をしていただいた技術職員、事務支援員の皆様にこの場を借りて感謝したいと思います。

(薬師久弥 記)

